

SYOHEI ニュース 令和5年3月号

新型コロナ対応に携わって！

総合水沢病院院内感染管理者 佐藤 香苗

2019年12月に初めて報告された新型コロナウイルス感染症(COVID-19)がSARSやMARSを引き起こすウイルスよりも速く伝播し、世界へ急速に感染拡大してから4年目に入りました。

当時は訳の分からないウイルスに翻弄され、あらゆる会議と研修から少しでも多くの情報を得ようと必死だったことを思い出します。



感染管理チームの皆さん

当院は第二種感染症指定医療機関です。胆江圏域にて新型インフルエンザ等感染症が発生した場合に備え、2016年より胆江圏域での搬送訓練、患者受入れ時対応訓練、PPE着脱訓練等を行ってきました。この経験を活かし、不安や恐れはありましたが、先生方をはじめ、部署を越えて協力していただきながら発熱外来や感染病棟開設、コロナワクチン接種などの対応を行ってきました。

新しいことを始めるのは苦しいこともありましたが、幸いなことに岩手県が感染者0(ゼロ)を長いこと続けたこともあって施設内工事、マニュアルの作成、スタッフ育成に十分な時間があり助かりました。なかでも感染病棟勤務を命じられたスタッフが誰一人として「できない」と言わず、前向きに病棟での動きを確認、訓練してくれたことには感謝しかありません。

この新型コロナウイルス感染症対策において、胆江圏域での医療連携が進み、顔の見える関係ができたことは、今後の胆江圏域の医療を考えるうえでとても良いことであ

ると思います。今後も市民に求められる病院になれるよう、感染対策だけではなく努めていきたいと考えております。

(副総看護師長兼健康管理科長)

桜の名木：北館桜 (衣川 横道下)

推定樹齢約700年、四方に大きく枝を張り出した桜の巨木が北館桜です。

種類はエドヒガンザクラで、樹高19m、根本周りが7m20cm、岩肌を思わせるような樹皮とあいまって、周囲を圧倒する存在感を感じさせます。

例年の花の見頃4月中旬から下旬で、盆栽のように広く張り出した枝先まで清楚な桃色の花を咲かせた様子は見ごとの一言です。



大谷選手WBCで日本の世界一奪還に貢献

第5回WBC決勝・米国戦を3-2で制した侍ジャパンが14年ぶりに世界一を奪還。

大会MVPには投手として2勝1セーブ、防御率1.86、打者として打率435、1本塁打、8打点の二刀流・大谷翔平選手が受賞しました。胴上げ投手にもなる等大活躍でした。

岩手県内の新型コロナ感染の状況

3月27日現在の感染者数は1,857人/月(累計で234,450人)、死者数は10人/月(累計616人)。感染者及び死者数ともに減少です。

年度	2年度計	3年度計	4年度													
月	2年度	3年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
感染者	621	17642	9353	7096	3336	16568	36524	17465	12222	34126	46878	24082	6681	1857	234450	
死者数	30	47	8	6	5	13	54	30	11	66	149	158	29	10	616	

『SYOHEI ニュース』は市医師養成事業関係者の情報紙です。
令和5年3月28日発行 奥州市医療局医師確保推進室
〒023-0053 奥州市水沢大手町3-1 TEL0197-25-3833
※ 奥州市医療局HPにバックナンバーを掲載しています。

奥州市HPの中の「奥州市の先人」今回は、舞踊家『小牧正英』をご紹介します。

日本バレエ界を開いた：^{こまきまさひで}小牧正英（1911年：明治44年～2006年：平成18年）

小牧正英（本名は菊池栄一）は、1946年（昭和21年）、日本で初めて「白鳥の湖」を全幕上演したバレエダンサーであり、日本の「天才ダンサー」と呼ぶにふさわしい人物であった。日本におけるバレエの歴史は、小牧正英の活動をなくして語ることはできない。

小牧正英は、1911年9月25日江刺岩谷堂に生まれる。生家は味噌・醤油・酢の製造販売を営んでいた。しかし長男であるにもかかわらず家業を継ぐ気は起こらず、16歳に上京、創立間もない目白商業学校（東京）に進学した。



「白鳥の湖」で王子を演じる
（バレエ・ルッス時代）

1934年、画家を志しパリに行こうと考え、大陸の満州に渡り、鉄道でパリに渡ろうとしたが果たせず、ハルピン（中国黒竜江省）に留まった。だが、ハルピンに留まったおかげでハルピン市音楽バレエ学校を知ることになる。この学校はロシア人しか入学が許可されない学校だった。しかし、正英は特例のテストに合格して同校バレエ科に入学が許可された。このバレエ学校の、卒業記念公演「胡桃割り人形」において、主役フリッツの役でモデルン劇場の初舞台を踏んだ。

1940年（昭和15年）、巡業で上海に立ち寄っていたロシアンバレエ団（バレエ・ルッス）から招請されて入団。このあと、同バレエ団の全作に出演し、舞台経験を踏んだ。1944年（昭和19年）には「ペトルウシュカ」の主役をライセラム劇場で踊り、その躍動感あふれる踊りと高い技術を絶賛された。このあとも活躍は続き、「シェヘラザード」「白鳥の湖」「眠れる森の美女」「ジゼル」「エスメラルダ」「ドンキホーテ」「イワンの馬鹿」・・・など数々の舞台で主要な役柄を踊った。

このように、名作の舞台を次々に踏み、様々な体験をしながらバレエを学んでいるさなかに太平洋戦争が勃発し、世の中全部が混乱に陥った。正英は、戦後まもなくの1946年（昭和21年）4月、幾度もの危機を乗り越えて、上海より日本に引き揚げた。

その翌年、東京バレエ団設立に参加。日本で初めて「白鳥の湖」が帝国劇場で全幕上映された。正英は、その演出・振り付け・指導のすべてを行い、出演もした。「白鳥の湖」は22日間にわたって公演され、空前の観客動員を記録した。

その後、小牧バレエ団を創設し、バレエダンサーの養成に努めながら、古典バレエの名作の数々を日本上演した。その活躍は、日本にバレエの神髄を伝え、普及させる原動力となり、日本バレエ界を短期間で世界水準にまで引き上げる重要な役割を果たした。2006年9月13日、日本バレエ界の先駆者の舞踊家である正英は、肺炎のため死去した。94歳であった。

※ 日本語で表記する際、ストーリー性を持った踊りによる舞台芸術を「バレエ」としたのも正英である。スポーツのバレーボールとの混同を避け、区別するためであった。